水位周知区間の水害リスクマップ（邑楽・館林圏域）
浸水が想定される範囲を表示

1．説明文

（1）この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、高頻度（年超過確率１／５～１／１０）、中高頻度（年超過確率津１／２５～１／３５）、中頻度（年超過確率１／５０～１／７０）、中低頻度（年超過確率１／１００）、低頻度（年超過確率１／２００）の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。

（2）この水害リスクマップは、現況の邑楽・館林圏域の水位周知区間の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、高頻度（年超過確率１／５～１／１０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／５～１／１０（１０%～２０%）））、中高頻度（年超過確率１／２５～１／３５（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／２５～１／３５（２．９%～４%）））、中頻度（年超過確率１／５０～１／７０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／５０～１／７０（１．４%～２%）））、中低頻度（年超過確率１／１００（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１００（１%））、低頻度（年超過確率１／２００（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／２００（0.5%）））の降雨に伴う洪水により利根川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

（3）このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、各河川における河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

（4）想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき公表したものを表示しているため、河道条件等が異なります。

2．基本事項等

（1）公表年月日　令和５年○○月○○日

（2）作成主体及び対象となる河川
・群馬県県土整備部河川課：谷田川、新堀川

（3）実施区間
・谷田川
左岸：館林市青柳（青柳橋）から渡良瀬川合流点まで
右岸：邑楽郡明和町矢島（青柳橋）から渡良瀬川合流点まで
・新堀川
左岸：邑楽郡邑楽町赤堀（逆川合流点）から谷田川合流点
右岸：邑楽郡邑楽町赤堀（逆川合流点）から谷田川合流点

（4）算出の前提となる降雨
・年超過確率１／５～１／１０
・年超過確率１／２５～１／３５
・年超過確率１／５０～１／７０
・年超過確率１／１００
・年超過確率１／２００

（5）河道条件：現況

（6）関係市町村
＜群馬県＞館林市、板倉町、明和町、邑楽町、千代田町
＜埼玉県＞加須市

※この水害リスクマップは流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

位置図

N

凡例
- 高頻度
- 中高頻度
- 中頻度
- 中低頻度
- 低頻度
- 想定最大規模
- 市町境界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川

0　1　2　4　6　8　10 km